

伊豆便り

田島 征三

この写真は、ミシェルこと渡部淑子さんが自慢の最新カメラで撮ったものだ。左端の人。ぼくの両側とその右は[鉢&田島征三『絵本と木ノ実の美術館』]がある新潟県十日町市の山奥、鉢集落、九十年代八十代七十代の御婦人『入山シスターズ』と、ぼくは呼ばせていただいている。その右は影山貴美子さん、右端は美術館になる前の真田小学校、最後の卒業生ユウタロウ。

この写真を FB にアップしたら、おおたか 静流さんからコメントが書き込まれた。

“現代美術の「盲点」に、ハッとするための素敵なさじえすちよんです。”
静流さんは、才能あるヴォイスアーティストで、感性の鋭さにはいつも驚嘆されている。大沢豊さんも大ファン、ぼくももちろん大ファンのおおたか 静流さん。強制収用の時トラストの森で歌ってくれた。「現代美術の盲点へのサジェスチョン」という指摘は、ぼくにとって我が家意を得たコメントだ。この展覧会の会場は現代美術の美術館「キナーレ」であり、ぼくの今回展示した作品以外は、全てすばらしい「現代美術」が展開している。そこに、この写真！写真そのものが「現代美術の盲点に対するサジェスチョン」だと静流さんは云っているのだ。

本来ぼくは現代美術の作品の中に大好きなものが多い。しかし大方のものはカッコイイか、とりすましている。静流さんも、キナーレの中味を知っている上で、この写真の中にある物語を深く感じ、うれしいコメントを送ってくれた。

来年は越後妻有アートリエンナーレの年、山羊小屋や池や小川や田を作品としようとしている。そして入山シスターズがお世話してくださる山羊を含めて田や池や小川に棲む生きものたちを作品として鑑賞者に見せようとしている。

この企ては、現代美術史上初めて”事件”ではないかとぼくは思っている。

「田島征三コレクションギャラリー 空間絵本ものがたり展」11月23日まで
越後妻有里山現代美術館キナーレ(10:00～17:00)水曜休館

「田島征三展 ふきまんぶく 一それから、そしてこれからー」11月30日まで
安曇野ちひろ美術館(10:00～16:00)水曜休館

